

10. ば ら

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	発病初期	5回以内	
39	ピリカット乳剤	散布	発病初期	6回以内	花き類・観葉植物(きく、宿根かすみそら、りんどうを除く)
19	ポリオキシンAL乳剤	散布	発病初期	8回以内	
3	マネージ乳剤	散布	発病初期	6回以内	
M10	モレスタン水和剤	散布	発病初期	10回以内	花き類・観葉植物(カーネーションを除く)
3	ルビゲン水和剤	散布	-	6回以内	

・殺菌剤(参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M4	オーソサイド水和剤80	散布	発病前～発病初期	8回以内	
NC	カリグリーン	散布	発病初期	-	花き類・観葉植物(きくを除く)
3	サルバトーレME	散布	発病初期	7回以内	
M5	ダコニール1000	散布	発病前～発病初期	6回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	-	5回以内	
NC	ハーモメイト水溶剤	散布	収穫前日まで	-	
M1	ヨネポン水和剤	散布	-	6回以内	

・殺虫剤(参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物
	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(きく、宿根スタチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く)
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	
6	コロマイト水和剤	散布	発生初期	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	-	6回以内	
21	ダニトロンフロアブル	散布	発生初期	1回	花き類・観葉植物
4	ダントツ粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	花き類・観葉植物(きくを除く)
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウィルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
ベ と 病 (F)	5 ~ 10 月	1. 施設では、過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。	
黒 星 病 (F)	5 ~ 10 月	1. 施設では、過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. オーソサイド水和剤80の800倍液、ダコニール1000の1,000倍液、トップジンM水和剤1,500~2,000倍液、サルバトーレMEの3,000倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一剤の連用を避けローテーション使用する。
腐 ら ん 病 (F)	剪定直後	1. 枯死枝は剪除し、焼却する。	
うどんこ病 (F)	5 ~ 10 月	1. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 2. ポリオキシンAL乳剤800倍液、マネージ乳剤1,000倍液、ピリカット乳剤2,000倍液、モレスタン水和剤、ルビゲン水和剤の3,000倍液、トリフミン水和剤5,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ヨネポン水和剤500倍液、カリグリーン、ハーモメイト水溶剤の800倍液、ダコニール1000の1,000倍液、トップジンM水和剤1,500~2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一剤の連用を避けローテーション使用する。 2. 特にDMI剤(マネージ、ルビゲン、トリフミン)は連用しない。
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 施設では過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ハーモメイト水溶剤800倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一剤を過度に連用しない。
ハ ダ ニ 類	5 月 ~ 9 月	[参考農薬] 1. カスケード乳剤、ダニトロンプロアブルの1,000倍液、コロマイト水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 乾燥時に発生が多い。 2. 葉裏に十分散布する。 3. コロマイト、カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 4. コロマイトは高温、乾燥時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。また、アルキルエーテル系の展着剤を加用すると薬害を助長することがあるので使用しない。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アブラムシ類	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <p>1. ダントツ粒剤を 1 株当たり 1 g、又はオルトラン粒剤 10 a 当り 3 ~ 6 kg を株元散布する。</p> <p>2. スミチオン乳剤 1,000 ~ 2,000 倍液を散布する。</p>	
ミカンキイロ アザミウマ (アザミウマ類)	生 育 期 間	<p>1. 施設の開口部を防虫ネット (0.4mm 目合) で覆い、侵入を防ぐ。</p> <p>2. 収穫しなかった花の花粉は雌成虫の餌となるので、速やかに摘み取る。</p> <p>[参考農薬]</p> <p>1. オルトラン水和剤 1,000 ~ 1,500 倍液、カスケード乳剤、モスピラン顆粒水溶剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。</p>	1. カスケード、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。